

**平成26年度
政策別コスト情報・
省庁別財務書類の概要**

環境省

環境省の任務と組織等の概要

○環境省の任務（環境省設置法第3条）

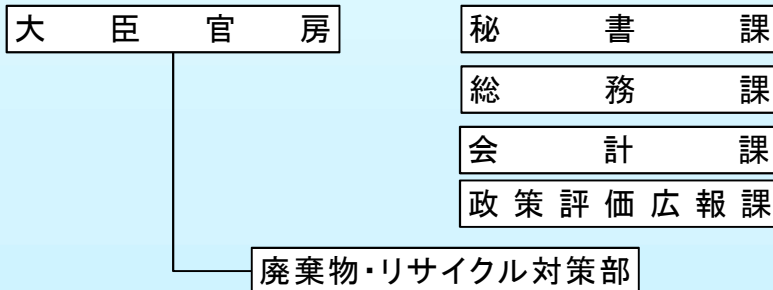
地球環境保全、公害の防止、自然環境の保護及び整備その他の環境の保全（良好な環境の創出を含む。以下単に「環境の保全」という。）並びに原子力の研究、開発及び利用における安全の確保を図ること

組織等

※平成26年度末現在

定員 … 2,803名

(本省)



総合環境政策局

環境保健部

地球環境局

水・大気環境局

自然環境局

(所管法人)

(独)国立環境研究所

(独)環境再生保全機構

環境安全事業株式会社(※)

(施設等機関)

環境調査研修所

水俣病総合研究センター

(管理事務所等)

国民公園等管理事務所(3カ所)

千鳥ヶ淵戦没者墓苑管理事務所

生物多様性センター

(地方支分部局)

地方環境事務所(7カ所)

(外局)

原子力規制委員会

原子力規制庁

※H26年12月24日より「中間貯蔵・環境安全事業株式会社」に社名が変更されました。

～政策評価と組織の関係～

政 策	1 地球温暖化対策の推進	2 地球環境の保全	3 大気・水・土壌環境等の保全	4 廃棄物・リサイクル対策の推進	5 生物多様性の保全と自然との共生の推進	6 化学物質対策の推進	7 環境保健対策の推進	8 環境・経済・社会の統合的向上	9 環境政策の基盤整備	10 放射性物質による環境汚染への対処	11 原子力・放射線施設の安全確保	12 危機管理体制の整備及び事故時の影響緩和	13 原子力規制行政に対する信頼の確保
廃棄物・リサイクル対策部				●						●			
総合環境政策局								●	●				
環境保健部			●			●	●			●			
地球環境局	●	●											
水・大気環境局			●							●			
自然環境局					●								
原子力規制委員会											●	●	●

～各政策における事業概要～

① 地球温暖化対策の推進・・・1,100億円

地球温暖化防止に関する取組を国際的に協調して行っていくために1992年に採択された気候変動枠組条約が究極的な目的に掲げる「気候系に対する危険な人為的影響を及ぼすことにならない水準において大気中の温室効果ガスの濃度を安定化させること」を目指す。

② 地球環境の保全・・・45億円

オゾン層保護対策及び地球環境分野における国際協力・研究調査を通じて、地球規模の環境を保全する。

③ 大気・水・土壌環境等の保全・・・936億円

大気汚染・騒音・振動・悪臭に係る大気環境基準、人の健康の保護及び生活環境の保全に関する水質環境基準等の目標の達成・維持を図るとともに、地盤環境の保全を図り、また、土壌汚染による環境リスクを適切に管理することにより、生活環境を保全し、国民の安全と安心を確保する。

④ 廃棄物・リサイクル対策の推進・・・1,793億円

生活環境保全及び資源の有効利用の観点から、廃棄物等の発生の抑制、循環資源のリユース・リサイクル及び適正処分の推進により、天然資源の消費を抑制し、環境負荷を低減する循環型社会を構築する。また、東日本大震災により発生した災害廃棄物の安全かつ迅速な処理を推進する。

⑤ 生物多様性の保全と自然との共生の推進・・・187億円

生態系のもたらす恵みを将来にわたって継承するため、国土全体から地域までの様々なレベルにおいて、それぞれ多様な生態系及び動植物が保全され、持続可能な利用が図られる「自然と共生する社会」を実現する。

⑥ 化学物質対策の推進・・・16億円

化学物質による環境リスクを評価するとともに、リスクコミュニケーションを通じて社会的な合意形成を図りながら、環境リスクを管理し、人の健康の保護及び生態系の保全を図る。

⑦ 環境保健対策の推進・・・255億円

公害による健康被害について、予防のための措置を講じ、被害の発生を未然に防止するとともに、被害者に対しては、汚染者負担の原則を踏まえつつ、迅速な救済・補償を図る。

⑧ 環境・経済・社会の統合的向上・・・16億円

市場において環境の価値が積極的に評価される仕組みづくり、環境保全の人づくり・地域づくりの推進を通じて、環境的側面、経済的側面、社会的側面が統合的に向上する持続可能な日本社会を生み出す。

⑨ 環境政策の基盤整備・・・303億円

各種の技術開発や研究の推進、環境とそれに関連する様々な情報の整備、意思決定の各段階への環境配慮の統合といった、持続可能な社会づくりを支える基盤の整備を推進する。

⑩放射性物質による環境の汚染への対処・・・ 5,450億円

放射性物質汚染対処特措法に基づき、放射性物質により汚染された廃棄物の適正な処理の推進及び除染等の措置を迅速に実施する。

⑪原子力・放射線施設の安全確保・・・ 280億円

平成25年度の改正原子炉等規制法の施行に向け新たな規制基準を策定する。また、同法及び放射線障害防止法を適切かつ厳正に執行し、原子力・放射線施設における事故を未然に防止する。

⑫危機管理体制の整備及び事故時の影響緩和・・・ 83億円

改正原子力災害対策特別法等に基づき、原子力災害対策指針を策定し、関係者の原子力災害対策の計画策定や円滑な実施を支援するとともに、原子力規制委員会における危機管理体制を整備する。また、環境中の放射線及び放射性物質の水準の適切な監視と関係者による活用を可能にする情報提供を行う。

⑬原子力規制行政に対する信頼の確保・・・ 121億円

原子力規制行政の、独立性・中立性の確保、施策の有効性・効率性の向上、意思決定過程の透明化、人材の確保・育成、国際連携等を図る。

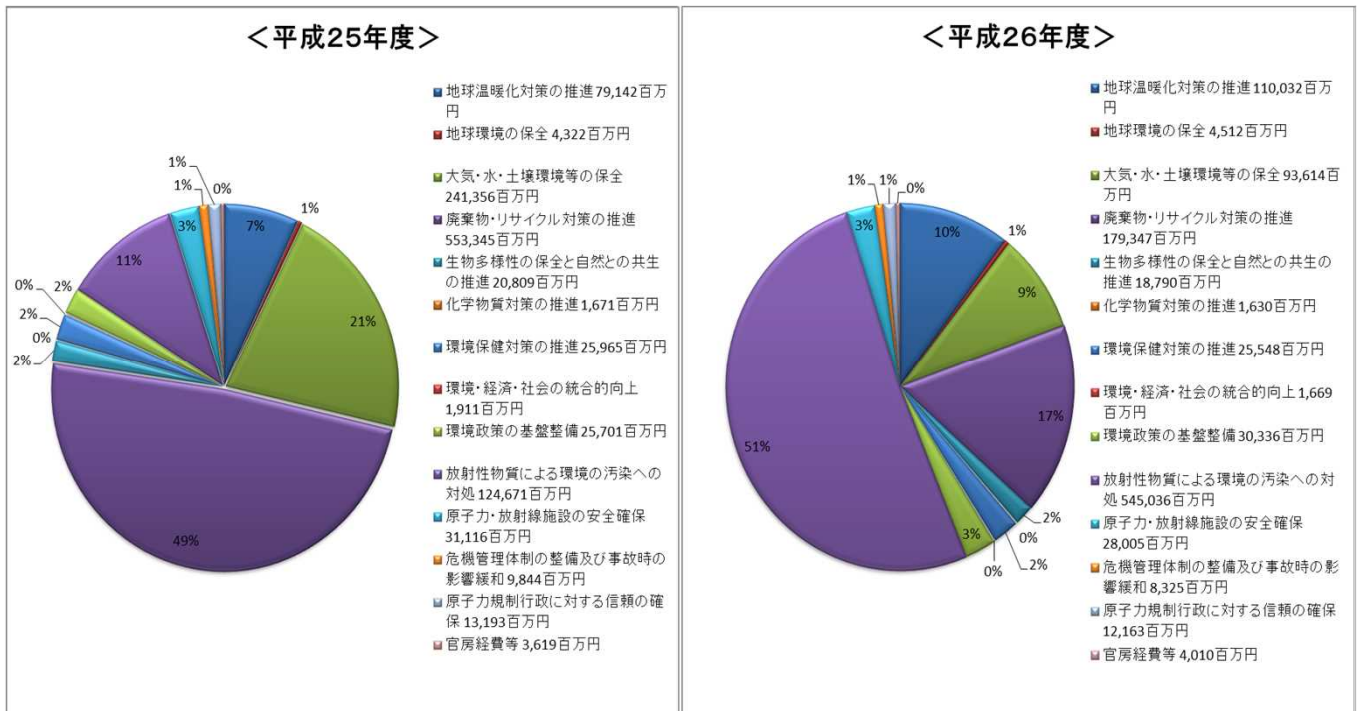
政策別コスト情報とは

政策別コスト情報は、より一層の財務情報の充実を図るため、平成21年度より各省庁において作成・公表されているものです。省庁別財務書類の業務費用計算書において人件費などの形態別に表示されている費用を、各省庁の政策評価項目毎に配分して表示したセグメント情報として作成しています。

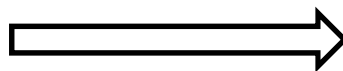
さらに、政策別コスト情報ではフローの情報だけではなく、政策によっては各省庁が保有する資産を活用して事務事業を行っているもののほか、政策にかかるコストとして算入された減価償却費についても基となる資産があることから、政策に関する主な資産(負債)をストック情報として表示しています。政策別のストックの情報についてはP11を参照してください。

業務費用計算書については、P18も参照してください。

～政策別コストの前年度比較～



11,366億円



10,630億円

-736億円

※単位未満切り捨てのため、合計額が一致しないことがあります。
 ※単位未満の計数がある場合は「0」、皆無の場合は「-」で表示しています。

政策別コストの経費別内訳概要

【26年度政策別コスト情報 経費別内訳】

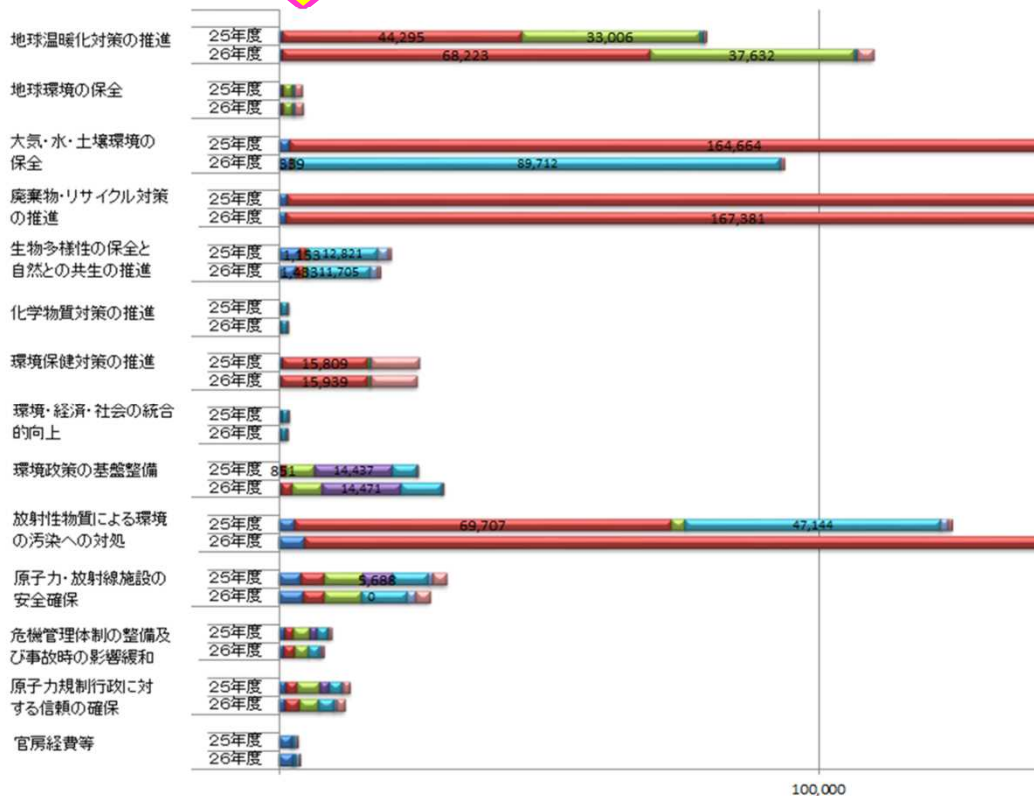
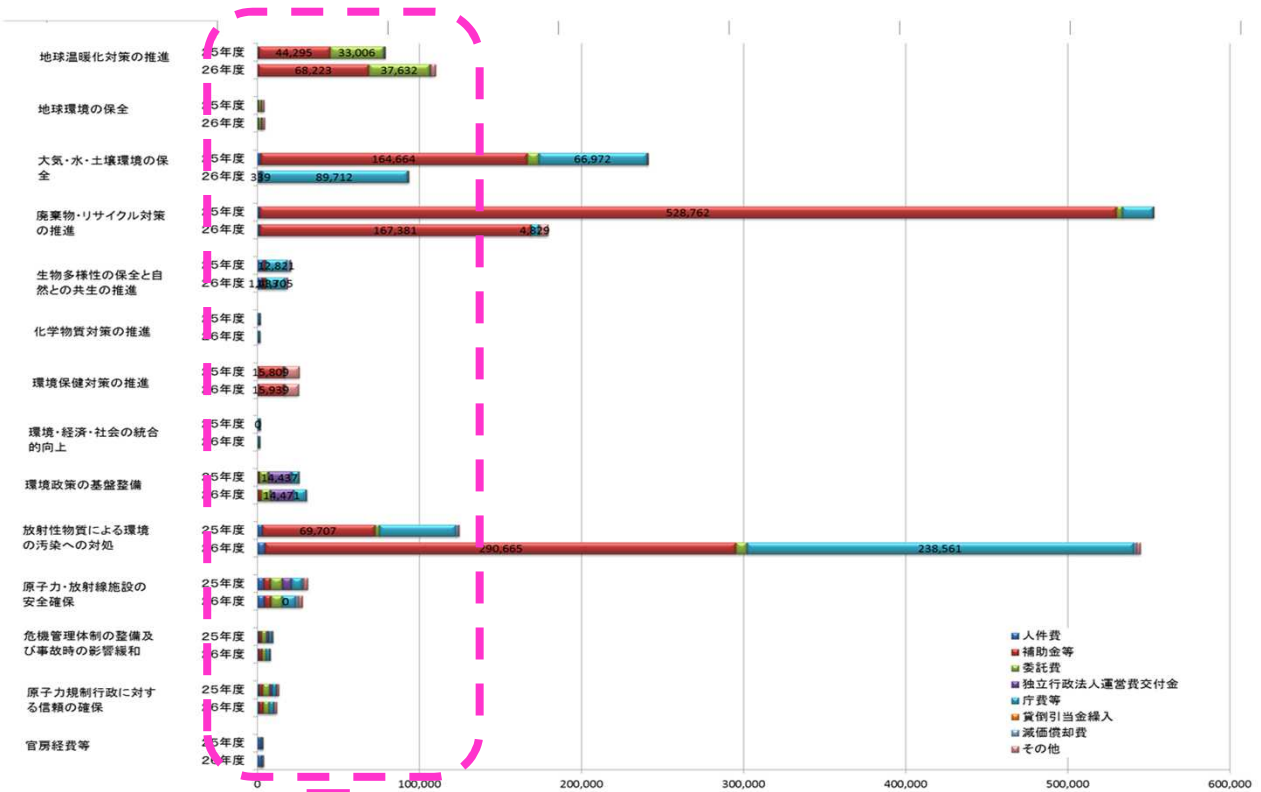
(単位:百万円)

区 分	合 計	コスト(業務費用)内訳							
		人件費	補助金等	委託費	独立行政法人 運営費交付金	庁費等	貸倒引当金繰 入額	減価償却費	その他
1. 地球温暖化対策の推進	110,032	557	68,223	37,632	-	450	81	105	2,981
2. 地球環境の保全	4,512	472	347	1,619	-	410	0	92	1,569
3. 大気・水・土壌環境等の保全	93,614	2,155	339	493	-	89,712	0	270	641
4. 廃棄物・リサイクル対策の推進	179,347	1,336	167,381	114	-	4,829	0	474	5,211
5. 生物多様性の保全と自然との 共生の推進	18,790	3,115	1,433	582	-	11,705	0	1,404	547
6. 化学物質対策の推進	1,630	294	-	99	-	1,090	0	65	81
7. 環境保健対策の推進	25,548	472	15,939	343	-	225	0	92	8,474
8. 環境・経済・社会の統合的向上	1,669	447	-	-	-	917	0	88	216
9. 環境政策の基盤整備	30,336	440	1,973	5,596	14,471	7,704	0	72	77
10. 放射性物質による環境の汚染 への対処	545,036	4,797	290,665	6,663	-	238,561	0	1,755	2,591
11. 原子力・放射線施設の安全確保	28,005	4,385	4,033	6,919	0	8,307	0	1,748	2,610
12. 危機管理体制の整備及び事故 時の影響緩和	8,325	905	1,979	2,437	0	2,140	0	358	504
13. 原子力規制行政に対する信頼 の確保	12,163	1,171	2,558	3,590	0	2,790	0	464	1,587
官房経費等	4,010	2,626	-	-	-	400	0	723	259
コスト計	1,063,023	23,179	554,875	66,093	14,471	369,247	83	7,715	27,356

※単位未満切り捨てのため、合計額が一致しないことがあります。
※単位未満の計数がある場合は「0」、皆無の場合は「-」で表示
しています。

～政策別コストの経費別 前年度比較～

(単位:百万円)



【政策別コスト(25' →26')】

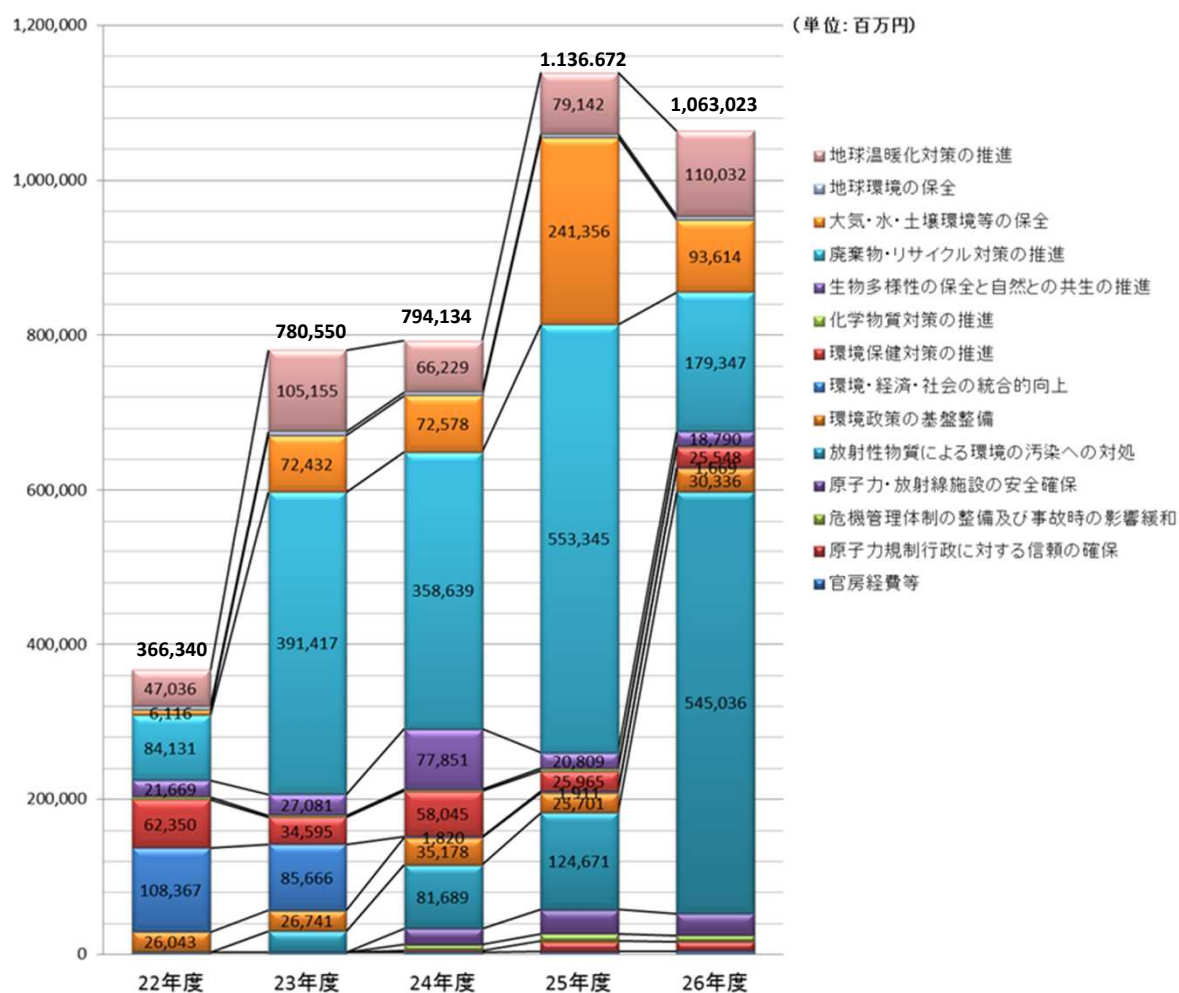
(単位:百万円)

区 分	25年度	26年度	対前年度(増△減)	主な増△減要因
1. 地球温暖化対策の推進	79,142	110,032	30,890	
2. 地球環境の保全	4,322	4,512	190	
3. 大気・水・土壌環境等の保全	241,356	93,614	△ 147,742	補助金の減等
4. 廃棄物・リサイクル対策の推進	553,345	179,347	△ 373,998	補助金の減等
5. 生物多様性の保全と自然との共生の推進	20,809	18,790	△ 2,019	
6. 化学物質対策の推進	1,671	1,630	△ 41	
7. 環境保健対策の推進	25,965	25,548	△ 417	
8. 環境・経済・社会の統合的向上	1,911	1,669	△ 242	
9. 環境政策の基盤整備	25,701	30,336	4,635	
10. 放射性物質による環境の汚染への対処	124,671	545,036	420,365	補助金の増等
11. 原子力・放射線施設の安全確保	31,116	28,005	△ 3,111	
12. 危機管理体制の整備及び事故時の影響緩和	9,844	8,325	△ 1,519	
13. 原子力規制行政に対する信頼の確保	13,193	12,163	△ 1,030	
官房経費等	3,619	4,010	391	
コスト計	1,136,672	1,063,023	△ 73,649	

※単位未満切り捨てのため、合計額が一致しないことがあります。
 ※単位未満の計数がある場合は「0」、皆無の場合は「-」で表示しています。

～政策別コストの推移～

➤H23年度より東日本大震災からの復旧及び復興に関するコストが加わり、H26年度においては「放射性物質による環境の汚染への対処」等にかかるコストが増加しています。一方でH26年度は、災害等廃棄物処理事業費補助金の事業規模の縮小等により「廃棄物・リサイクル対策の推進」に係るコストが減少しています。



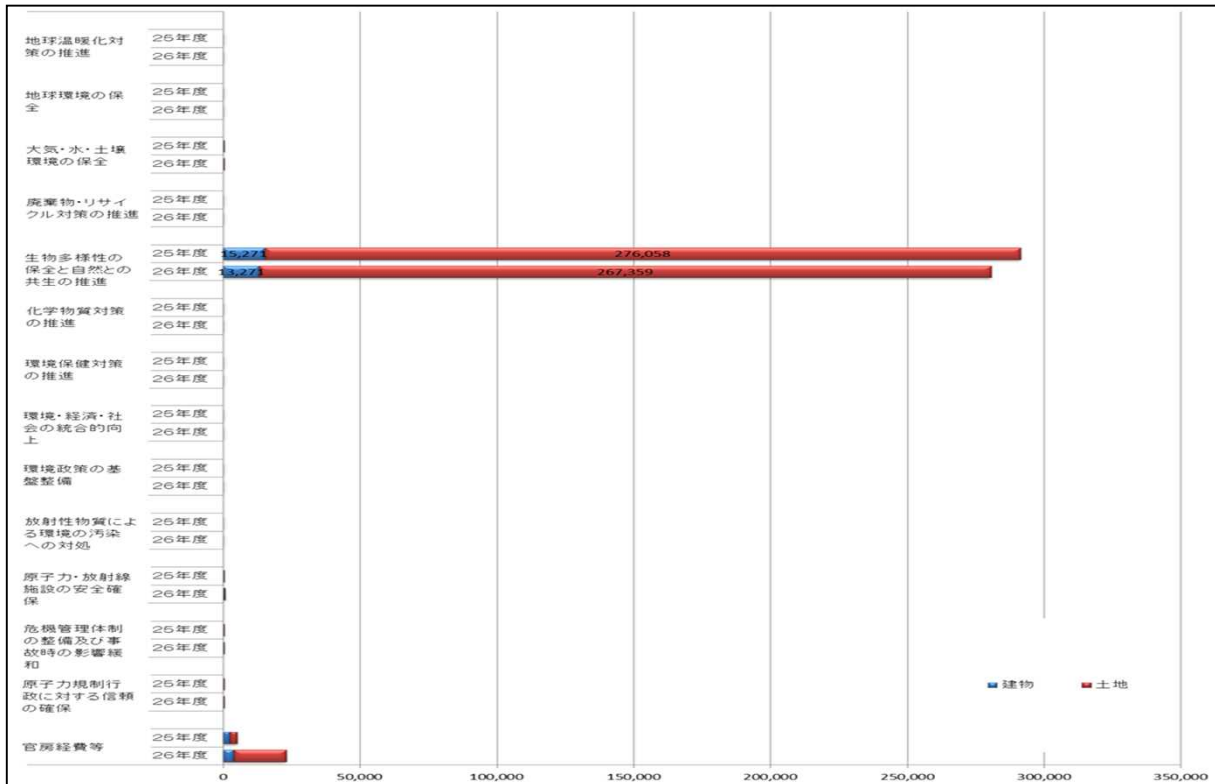
※単位未満切り捨てのため、合計額が一致しないことがあります。
 ※単位未満の計数がある場合は「0」、皆無の場合は「-」で表示しています。

～政策別のストック情報の前年度比較～

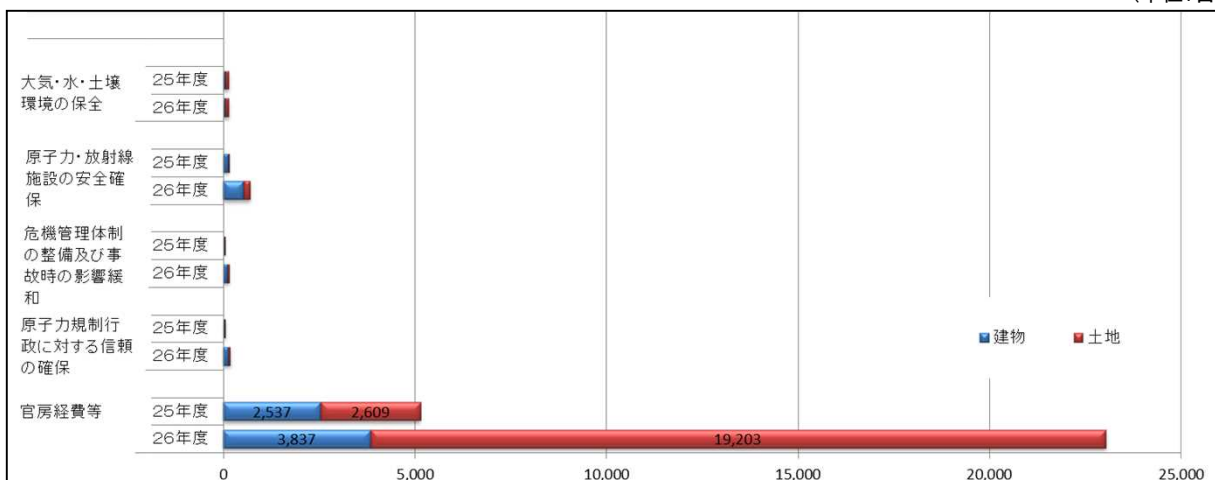
➤環境省の資産は、主に国民公園等の土地や国立公園にあるビジターセンター等の建物等になり、「生物多様性の保全と自然との共生の推進」で計上されています。

<環境省全体>

(単位:百万円)



<上記から「ストックのない施策」及び「生物多様性の保全と自然との共生の推進」を除いたグラフ> (単位:百万円)



※単位未満切り捨てのため、合計額が一致しないことがあります。
 ※単位未満の計数がある場合は「0」、皆無の場合は「-」で表示しています。

【政策に関連する主なストック(25' →26')】

(単位:百万円)

区 分	25年度	26年度	対前年度(増△減)	主な増△減要因
1. 地球温暖化対策の推進	-	-	-	
2. 地球環境の保全	-	-	-	
3. 大気・水・土壌環境等の保全	148	137	△ 11	
4. 廃棄物・リサイクル対策の推進	-	-	-	
5. 生物多様性の保全と自然との共生の推進	291,329	280,630	△ 10,699	
6. 化学物質対策の推進	-	-	-	
7. 環境保健対策の推進	-	-	-	
8. 環境・経済・社会の統合的向上	-	-	-	
9. 環境政策の基盤整備	-	-	-	
10. 放射性物質による環境の汚染への対処	-	-	-	
11. 原子力・放射線施設の安全確保	157	707	550	
12. 危機管理体制の整備及び事故時の影響緩和	37	156	119	
13. 原子力規制行政に対する信頼の確保	47	187	140	
官房経費等	5,146	23,041	17,895	
ストック計	296,867	304,860	7,993	

※単位未満切り捨てのため、合計額が一致しないことがあります。
 ※単位未満の計数がある場合は「0」、皆無の場合は「-」で表示しています。

省庁別財務書類とは

省庁別財務書類は、環境省のこれまでの予算執行の結果である資産や負債などのストックの状況、当該年度の費用や財源などのフローの状況といった財務状況を一覽でわかりやすく開示する観点から企業会計の考え方及び手法(発生主義、複式簿記)を参考として、平成15年度決算分より作成・公表しているものです。

省庁別財務書類においては、一般会計及び特別会計を合算した「省庁別財務書類」のほか、参考として各省庁の業務と関連する事務・事業を行っている独立行政法人などを連結した「省庁別連結財務書類」も作成・公表しています。

貸借対照表(平成26年度末)

(単位:百万円)

	前会計年度 (平成26年 3月31日)	本会計年度 (平成27年 3月31日)		前会計年度 (平成26年 3月31日)	本会計年度 (平成27年 3月31日)
< 資産の部 >			< 負債の部 >		
現金・預金	43,770	59,688	未払金	153	150
未収金	959	410	未払費用	57	-
前払金	121,551	76,246	賞与引当金	1,604	1,854
前払費用	358	82	退職給付引当金	21,931	18,178
その他債権等	5	79	その他債務等	1	1
貸倒引当金	△ 217	△ 200			
有形固定資産	334,394	341,119			
無形固定資産	394	368			
出資金	106,477	110,473			
			負債合計	23,748	20,184
			< 資産・負債差額の部 >		
			資産・負債差額	583,944	568,083
資産合計	607,693	588,267	負債及び資産・負債差額合計	607,693	588,267

業務費用計算書(平成26年度)

(単位:百万円)

	前会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	本会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)
人件費	19,374	25,987
退職給付引当金繰入額	2,299	△ 2,807
補助金等	833,716	554,875
委託費等	105,054	96,925
減価償却費	6,377	7,715
貸倒引当金繰入額	40	83
資産評価損	-	5,000
その他	169,809	375,242
本年度業務費用合計	1,136,672	1,063,023

※単位未満切り捨てのため、合計額が一致しないことがあります。
※単位未満の計数がある場合は「0」、皆無の場合は「-」で表示しています。

～省庁別財務書類(環境省)の概要～

- 環境省の省庁別財務書類においては、一般会計及び特別会計（エネルギー対策特別会計及び東日本大震災復興特別会計）を合算（会計間取引については、相殺消去）して作成しています。

また、ここでは、「貸借対照表」と「業務費用計算書」を中心に説明していますが、省庁別財務書類においては、このほか、資産・負債差額の増減を要因別に表している「資産・負債差額計算書」、財政資金の流れを決算を組み替えて区分別に明らかにしている「区分別収支計算書」、さらに各計算書の附属明細書も作成しています。

詳細については、別途公表している「省庁別財務書類」、「特別会計財務書類」をご参照ください。

～貸借対照表のポイント～

（資産）

- 現金・預金については、596億円強となりますが、これは、エネルギー対策特別会計の日本銀行における預金残高となります。
- 前払金については、762億円強となり前年度より大幅に増加しておりますが、これは、主に東日本大震災復興特別会計で実施した工事等で前金払いを行った額を計上しています。
- 有形固定資産については、3,411億円強と金額が大きく資産総額の6割弱を占めていますが、これは土地等の国有財産台帳価格を計上しており、主に新宿御苑等の国民公園及び千鳥ヶ淵戦没者墓苑並びに国民公園内の環境省所管地等を計上しています。
- 出資金については、1,104億円強と資産総額の2割弱を占めます。これは（独）国立環境研究所や（独）環境再生保全機構などの独立行政法人に対する環境省の出資金となります。

（負債）

- 退職給付引当金については、181億円強と負債総額の9割を占めています。ここには退職手当のほか、整理資源、国家公務員災害補償年金に係る引当金を計上しています。

～業務費用計算書のポイント～

- 業務費用計算書は、政策別コスト情報の経費を国の予算・決算の科目に対応した形態別に表示している計算書です。

(費用)

- 市町村に対し、災害その他の事由により特に必要となった廃棄物の処理を行うために要する費用の補助を目的とした災害等廃棄物処理事業費補助金などを含む補助金等が、5,548億円と業務費用合計額の5割強を占めています。
- 庁費等が、369,247億円と業務費用合計額の3割強となっており、補助金等に次ぎコストがかかっています。

(その他)

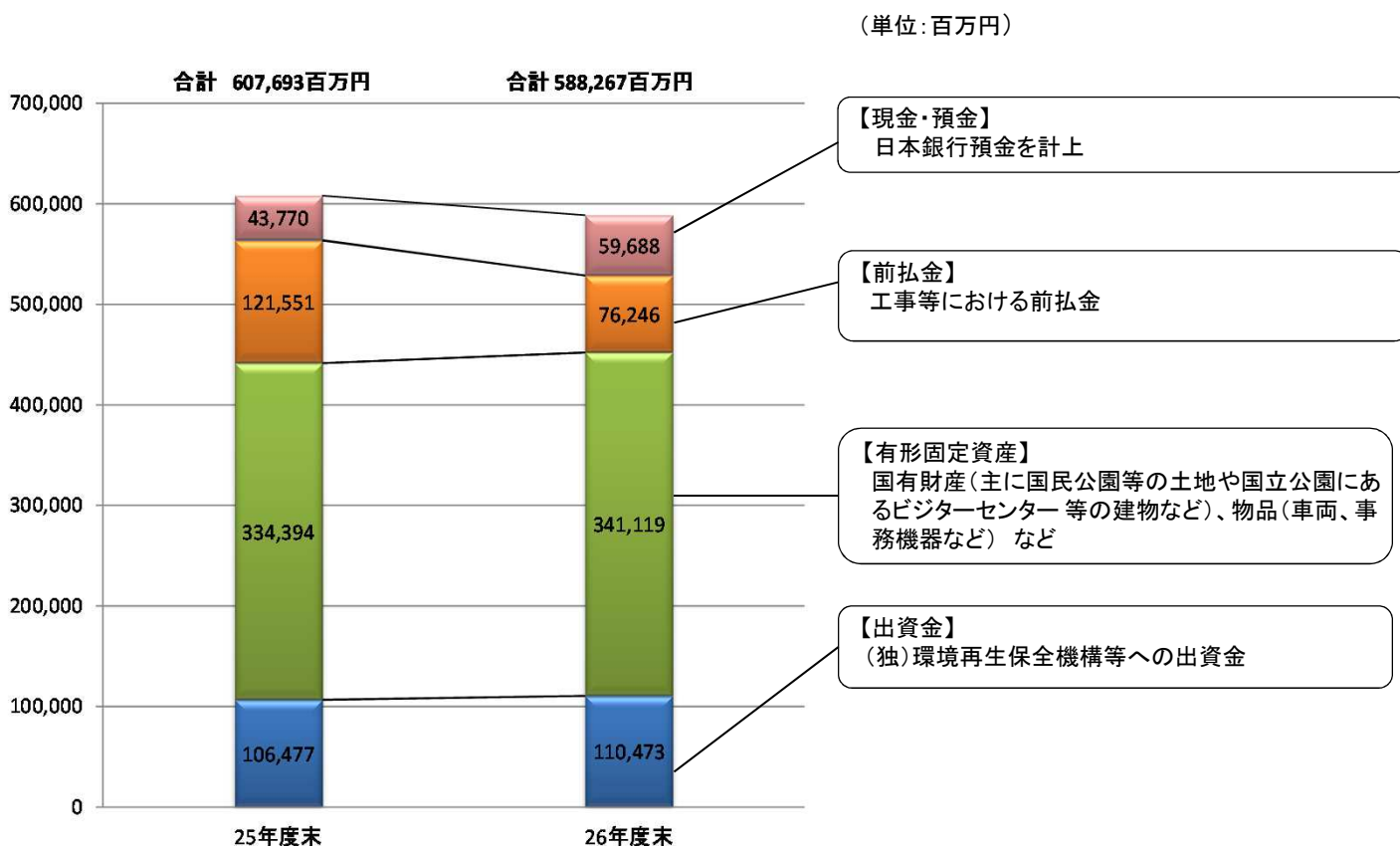
- 費用の主な増減として、災害等廃棄物処理事業費補助金の事業規模の縮小による事業計画の変更があったこと等により「補助金等」が対前年度2,788億円強の減となっています。

省庁別財務書類 ストックの状況 (貸借対照表)

資産

主な資産の内容及び増減要因等について

- 現金・預金(59,688百万円:対前年度末比15,918百万円増)
 - ・ エネルギー対策特別会計における日本銀行預金を計上しており、収納済歳入額と支出済歳出額の差額が大きかったため、大幅に増加しております。
- 前払金(76,246百万円:対前年度末比45,305百万円減)
 - ・ 主に東日本大震災復興特別会計で実施した工事等で前金払いを行った額を計上しており、前年度より大幅に減少しています。



※単位未満切り捨てのため、合計額が一致しないことがあります。
※単位未満の計数がある場合は「0」、皆無の場合は「-」で表示しています。

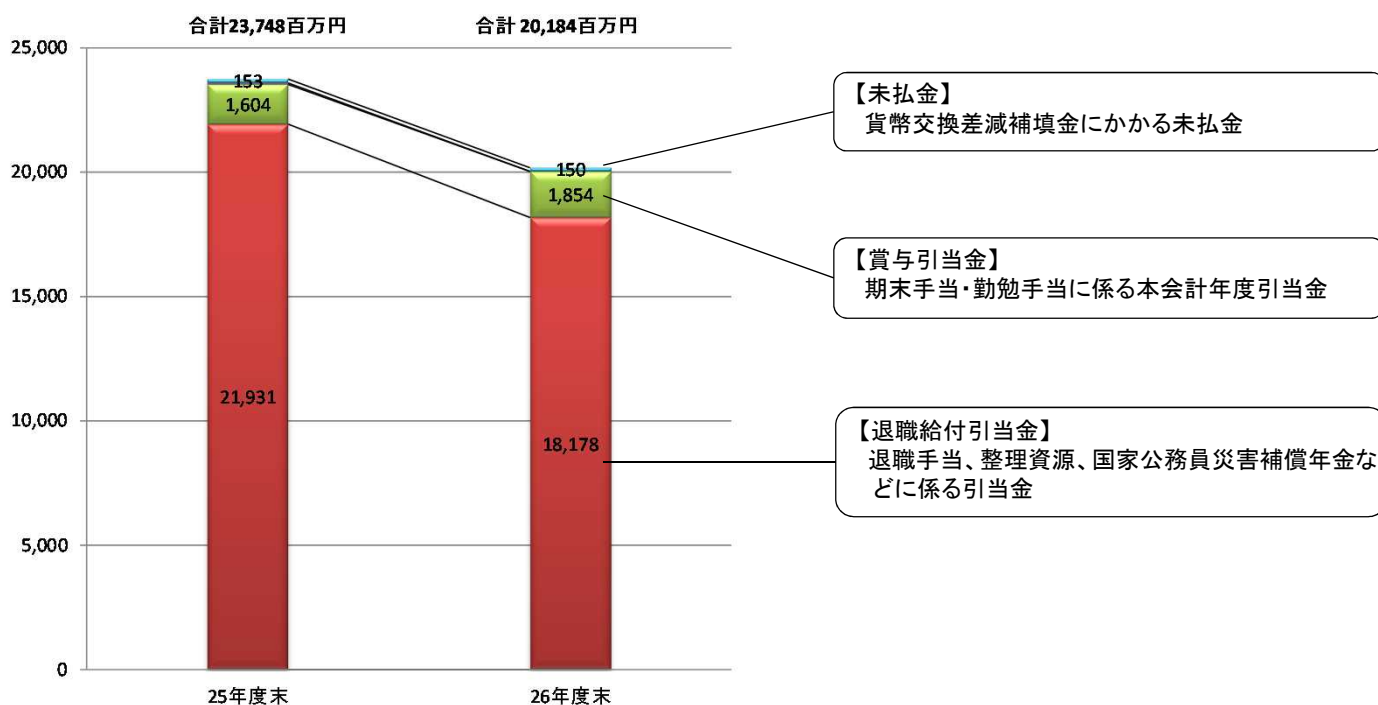
負債

主な負債の内容及び増減要因等について

- 賞与引当金(1,854百万円:対前年度末比249百万円増)
 - ・ 賞与引当金においては、期末手当、勤勉手当に係る本会計年度分を計上しております。

- 退職給付等引当金(18,178百万円:対前年度末比3,752百万円減)
 - ・ 退職給付等引当金においては、退職手当のほか、整理資源、国家公務員災害補償年金に係る引当金等を計上しております。

(単位:百万円)



※単位未満切り捨てのため、合計額が一致しないことがあります。
 ※単位未満の計数がある場合は「0」、皆無の場合は「-」で表示しています。

省庁別財務書類 フローの状況

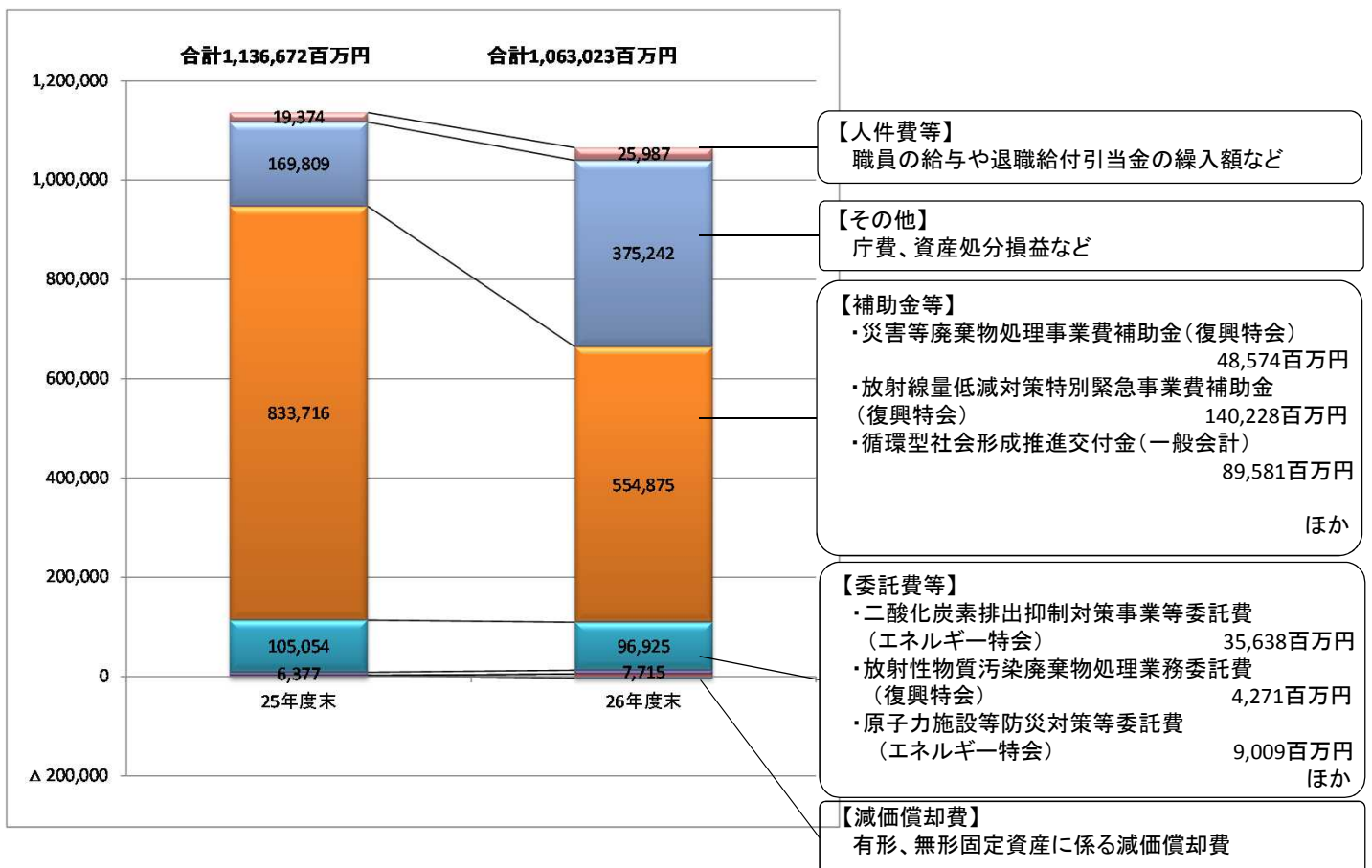
費用（業務費用計算書）

主な費用の内容及び増減要因等について

- 補助金等(554,875百万円:対前年度末比278,840百万円減)
 - ・ 市町村に対し、災害その他の事由により特に必要となった廃棄物の処理を行うために要する費用の補助を目的とした災害等廃棄物処理事業費補助金などを含む補助金等が、554,875百万円と業務費用合計額の5割強を占めています。

26年度においては災害等廃棄物処理事業費補助金の事業規模の縮小による事業計画の変更があったこと等により対前年度278,840百万円の減となっています。

(単位:百万円)



※単位未満切り捨てのため、合計額が一致しないことがあります。
※単位未満の数値がある場合は「0」、皆無の場合は「-」で表示しています。

(参考)連結財務書類について

連結財務書類は省庁の財務書類に独立行政法人などの財務諸表を連結した省庁別の連結財務書類を参考情報として作成しています。

連結貸借対照表(平成26年度末)

(単位:百万円)

	前会計年度 (平成26年 3月31日)	本会計年度 (平成27年 3月31日)		前会計年度 (平成26年 3月31日)	本会計年度 (平成27年 3月31日)
< 資産の部 >			< 負債の部 >		
現金・預金	85,507	120,920	未払金	17,075	17,508
売掛金	45,120	36,694	保管金等	79,331	83,177
有価証券	248,231	249,145	前受金	3,620	3,788
たな卸資産	2,706	2,775	賞与引当金	2,057	2,330
未収金等	12,445	11,447	環境再生保全機構債券等	14,999	10,000
貸付金	3,575	3,443	PCB基金預り金	58,425	77,063
破産更正債権等	4,960	3,751	借入金	91,084	61,384
貸倒引当金	△ 10,640	△ 7,295	退職給付引当金	25,811	21,786
有形固定資産	426,467	415,144	その他の債務等	23,731	35,774
無形固定資産	1,393	1,146	負債合計	316,139	312,813
その他	123,250	80,521	< 資産・負債差額の部 >		
資産合計	943,020	917,694	資産・負債差額	626,880	604,880
			負債及び資産・負債差額合計	943,020	917,694

連結業務費用計算書(平成26年度末)

(単位:百万円)

	前会計年度 (自 平成25年4月1日) (至 平成26年3月31日)	本会計年度 (自 平成26年4月1日) (至 平成27年3月31日)
人件費	30,884	32,820
退職給付引当金繰入額	2,042	△ 2,802
補助金等	820,397	547,817
委託費等	85,805	84,198
減価償却費	20,263	19,233
貸倒引当金繰入額	83	88
その他	303,831	482,892
本年度業務費用合計	1,263,307	1,164,247

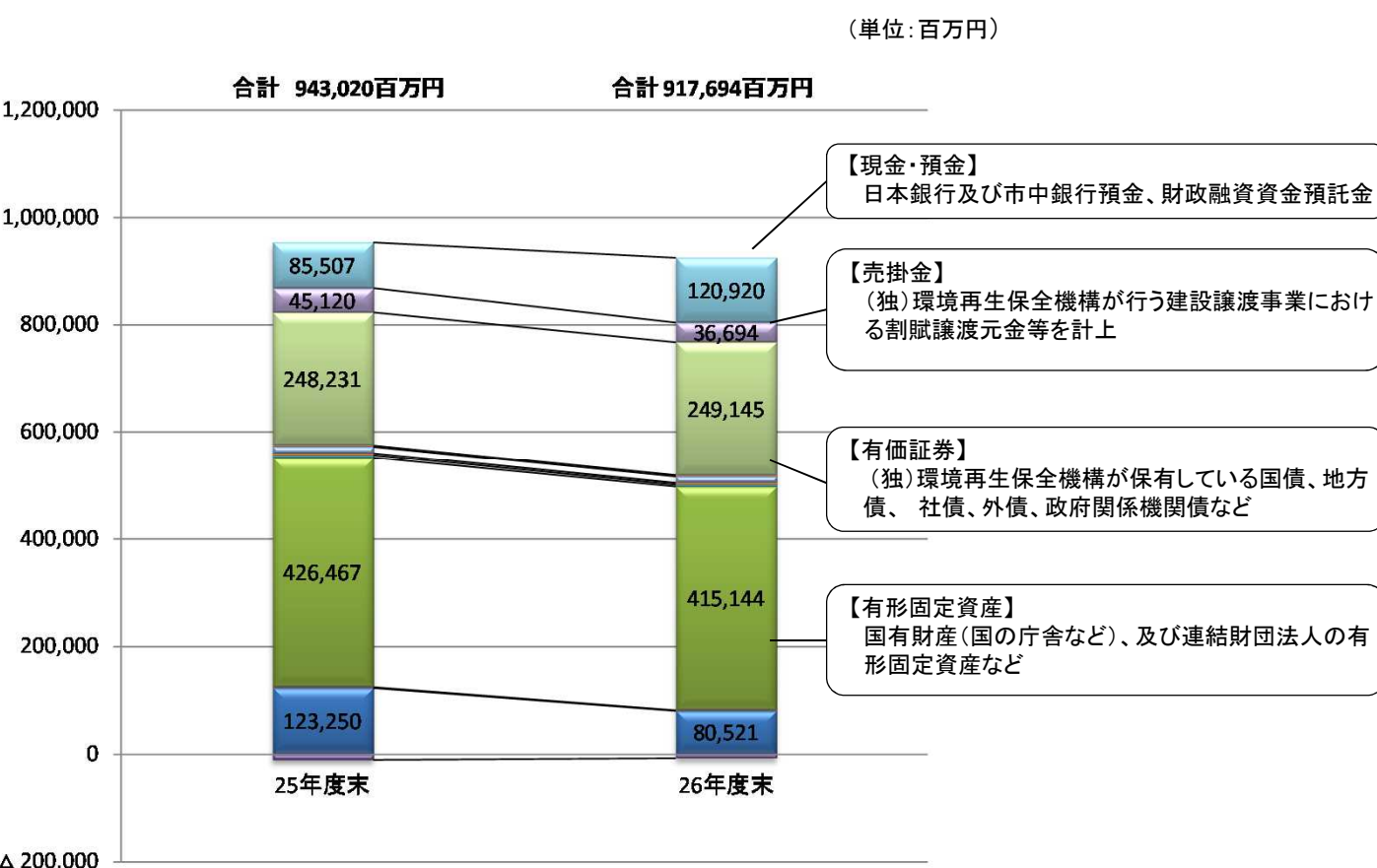
※単位未満切り捨てのため、合計額が一致しないことがあります。
※単位未満の計数がある場合は「0」、皆無の場合は「-」で表示しています。

連結財務書類 ストックの状況（貸借対照表）

資産

主な資産の内容及び増減要因等について

- 有形固定資産(415,144百万円:対前年度末比11,323百万円減)
 - ・有形固定資産については、国有財産並びに連結対象法人の有形固定資産を計上しています。
- 有価証券(249,145百万円:対前年度末比913百万円増)
 - ・(独)環境再生保全機構が保有している国債、地方債、社債、外債、政府関係機関債などの額を計上しています。
- 現金・預金(120,920百万円:対前年度末比35,412百万円増)
 - ・エネルギー対策特別会計における日本銀行預金のほか、連結対象法人が市中銀行に預け入れている預金及び財政融資資金預託金を計上しています。

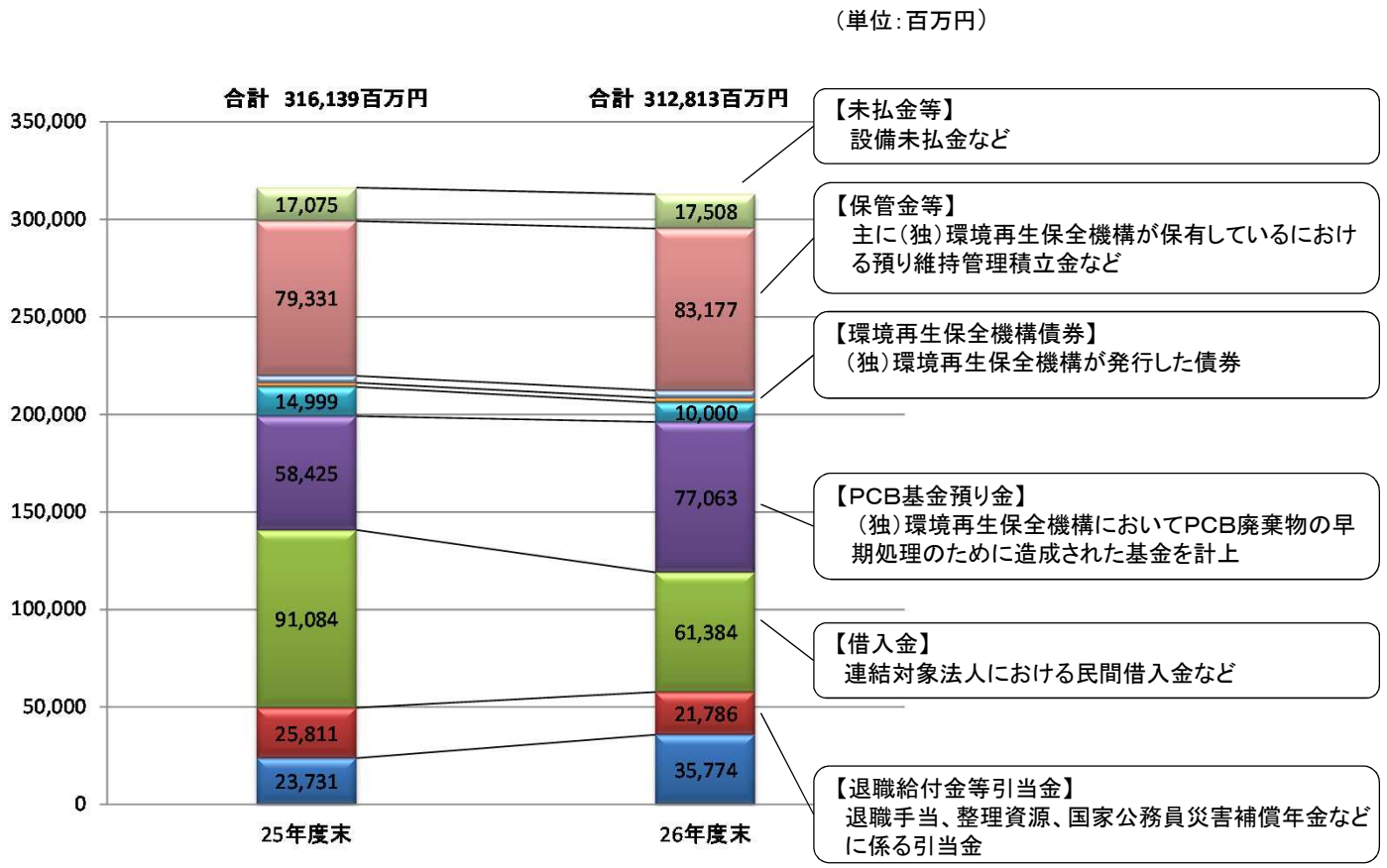


※単位未満切り捨てのため、合計額が一致しないことがあります。
 ※単位未満の計数がある場合は「0」、皆無の場合は「-」で表示しています。

負債

主な負債の内容、増減要因等について

- 借入金 (61,384百万円:対前年度末比29,699百万円減)
 - ・ 借入金は、環境省の負債の約2割を占めており、連結対象法人における民間借入金、財政融資資金借入金等を計上しています。
- 保管金等 (83,177百万円:対前年度末比3,845百万円増)
 - ・ 主に(独)環境再生保全機構が保有しているにおける預り維持管理積立金(管理型最終処分場の維持管理費にかかる積立金)を計上しています。



※単位未満切り捨てのため、合計額が一致しないことがあります。
 ※単位未満の計数がある場合は「0」、皆無の場合は「-」で表示しています。

連結財務書類 フローの状況

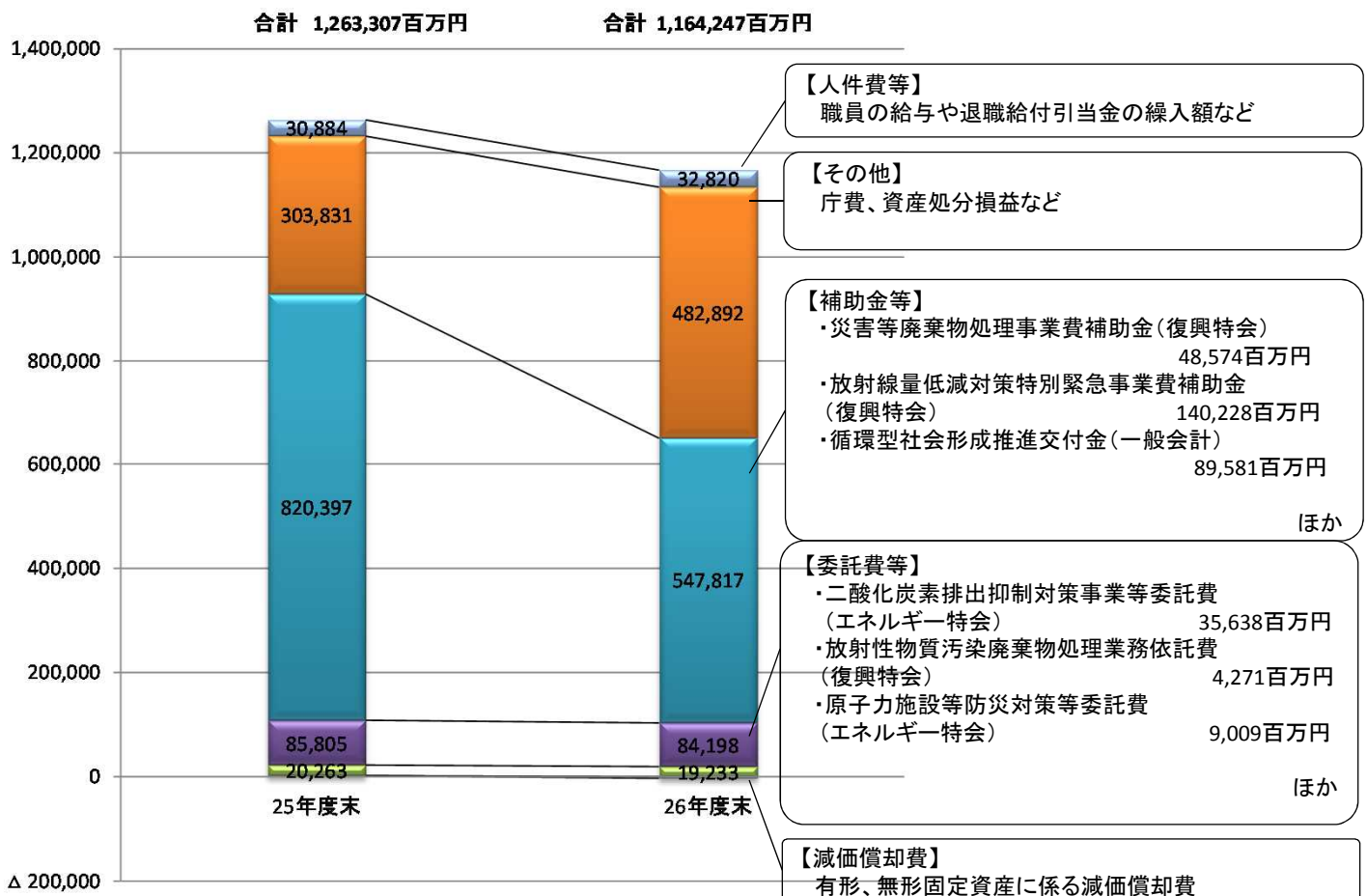
費用（業務費用計算書）

主な費用の内容及び増減要因等について

- 補助金等(547,817百万円:対前年度末比272,579百万円減)
 - ・ 市町村に対し、災害その他の事由により特に必要となった廃棄物の処理を行うために要する費用の補助を目的とした災害等廃棄物処理事業費補助金などを含む補助金等が、547,817百万円と業務費用合計額の5割弱を占めています。

26年度においては災害等廃棄物処理事業費補助金の事業規模の拡大による事業計画の変更があったこと等により対前年度272,579百万円の減となっています。

(単位:百万円)



※単位未満切り捨てのため、合計額が一致しないことがあります。
 ※単位未満の計数がある場合は「0」、皆無の場合は「-」で表示しています。

連結対象法人の範囲と会計処理について

連結財務書類は、各省庁の業務と関連する事務・事業を行っている法人を連結対象としています。

なお、この各省庁との「業務関連性」により連結する独立行政法人などは、『各省庁が監督権限を有し、各省庁から財政支出を受けている法人』とし、監督権限の有無及び財政支出の有無によって業務関連性を判断することとしています。

また、連結に際しては、本来であれば会計処理の基準を統一することが望ましいと考えられますが、事務負担などの観点から困難であるため、基本的には、独立行政法人などの既存の財務諸表を利用し、独立行政法人などに固有の会計処理について、連結に際して必要な修正を行った上で連結することとしています。

※平成26年度連結財務書類における連結対象法人は以下のとおりです。

○独立行政法人 3法人

独立行政法人国立環境研究所

独立行政法人環境再生保全機構

独立行政法人原子力安全基盤機構

（平成26年3月1日付けで施行された「独立行政法人原子力安全基盤機構の解散に関する法律」により、独立行政法人原子力安全基盤機構は解散され、その資産及び債務は同法第1条の規定により国に承継されている。）

○特殊会社 1法人

日本環境安全機構株式会社

（平成26年12月24日付けで「日本環境安全事業株式会社法の一部を改正する法律」が施行されたことを受け、「中間貯蔵・環境安全事業株式会社」に社名が変更された。）

合計 4法人